

老舗企業の持続力学ぶ

県生産性本部 埼玉大でシンポ

県生産性本部(会長・栗田美和子デリモ社長)はさいたま市桜区の埼玉大学で、特別シンポジウム「100年老舗企業の持続的競争力から考える」を開催した。会員企業や一般企業・労働組合関係者、埼玉大学関係者・学生、全国のオンライン参加者ら約700人が聴講した。

初めての催しに栗田会長は「埼玉は中小企業が元気で老舗企業が多い。先人から学び変革することが大切で、100年企業から学んで各社が考える場にしてほしい。ともに

学びましよう」とあいさつした。

第1部「老舗企業の経営者と従業員が語る」と題したシンポジウムでは、井戸掘削工事など土木工事業を国内外で展開する創立112年の「日さく」(本社・さいたま市大宮区)から若林直樹社長と東日本支社さく井部の木下優子さんが、地域密着型菓子製造販売業で創業160年の「梅林堂」(本社・熊谷市箱田)から栗原良太社長と店舗管理部企画室の飯田美枝子室長の4人がパネリストで登場。各



社の業務内容や社史、経営危機や事業承継などの苦労話や地域貢献をそれぞれ紹介した。また、木下さんと飯田室長が従業員としてのやりがいや仕事を通じて得た感動をエピソードを交えて発表した。

第2部「地域で育む100年企業」では、若林社長と栗原社長に加え、埼玉のそな銀行の加藤嘉夫法人部長、武蔵野銀行の関谷宏之地域サポート部長、埼玉信用金庫の小林徹執行役員地域創生部長、連合埼玉の平尾幹雄事務局長が、それぞれの立場から地域での事業評価や金融機関の支援策、働き手減少による雇用対策などについて意見を交わした。(高梨肇)

シンポジウムで発表する日さくの若林直樹社長(右端)と木下優子さん(中央左)、梅林堂の栗原良太社長(中央右)と飯田美枝子室長(さいたま市桜区の埼玉大学)